

土佐希望の家通信

<発行>重症心身障害児(者)施設 土佐希望の家 高知県南国市小籠107 TEL 088(863)2131/FAX 088(863)2133/
<http://www.i-kochi.or.jp/hp/tosakibo/> Email:tosakibo@i-kochi.or.jp 発行責任者 門田 正坦 編集責任者 中屋 淳

HAPPY LIFE
 家族の窓
 No.10
 (在宅)
 岡林玲加様



こんにちは、岡林玲加です。
 希望の家の分校の高等部を卒業して通園3年目になります。今年、希望の家で成人式を祝ってもらった二十歳です。

週に4日やまももに通っています。とても楽しく過ごしている様子で、家に送ってもらった時も嬉しいのか、満面の笑み！笑って体力をつかうのか、密かに気をつけているのか、帰宅してからはお風呂タイムです。手術をしていて声は出ませんが、たまにたばをゴロゴロ鳴らしながら大笑いしたり、顔をのぞき込むとニヤッとしたり、毎日よく笑っています。

やまももに通い始めてしばらくすると、一人の職員さんの動きを目で追ったり、右手をブンブン振ってアピールするようになっていました。きょうだいたちもすっぴんが大好きになり、玲加も大人になっているの分かってはいるつもりが、いつまでたっても子ども扱いしていたので、やまもものスタッフから「恋する玲加」の様子を聞かされた時は「ウソー」という感じでした。なんだか嬉しいような寂しいような...ちよっと複雑な親の心境でした。でも色んな感情を持って表せられるのはとても幸せなことですね。

週末には家族の都合で度々、2病棟で過ごしています。入所者の保護者の方にもよく声を掛けてもらっているようです。あんまり愛想がありませんが、実はとても喜んでいてはす...顔を見かけたら気軽に「玲さん！」と声をかけてやって下さいね。お願いします。

成長するにつれ、残念ながら家族で遠出することはほとんどなくなりました。今はやまももでの少人数グループの外出や保護者も参加することのできる遠足を毎回とても楽しみにしています。これからもたくさん、たくさん楽しいことがありますように!!



高知ライオンズクラブ (MY-LIFE) マナー

十月三日(土)、高知北ライオンズクラブ(スイートライオンズ)の皆さんが今年も演奏会に来てくれました。ありがとうございます。



懐かしのグループサウンスなどの生演奏を楽しみました♪

希望の家祭

十月十一日(日)、第三十一回希望の家祭が開催されました。今年も土佐希望の家創立三十九周年ということで、テーマは「サンキュー」でした。いままでも「ありがとう」として、これからも「ありがとう」という感謝の気持ちがこめられています。

今年も新型インフルエンザ対策のため、例年よりも小規模での開催となりました。喫茶のメニューや店の数はいつもよりも少なかったですが、ステージでは各病棟、在宅支援センターからの出し物、保護者の皆さんのよさこい鳴子踊り、希望の家の皆さんのダンスなど盛りだくさんでした。ステージ以外でも、利用者の方の作品を展示、販売したと、フリーマーケットも大忙しでした。



第31回希望の家祭が開催されました~!!

私の仕事



言語聴覚士 北岡美穂

今回の希望の家通信「私の仕事」は、言語聴覚士(S.T)北岡が担当します。
 私が希望の家に就職して5年が経ちました。以前は県外でS.Tをしていたのですが、「お酒大好き」高知文化が忘れられず(?!?)帰ってまいりました。ちょうど前任のS.Tが退職する頃と重なり、引き継ぎ形での就職となりました。前任の方は半年程度の勤務だったので、希望の家にS.Tが入職した期間は浅く、S.Tってどんなことするの?とよくご存知でない方もおられると思います。

言語訓練では、話し言葉へのアプローチはもちろん、理解力を高める訓練や話し言葉に代わる機器の指導なども行います。また、スキミングや感覚・運動体験をする事により、コミュニケーションの基礎を形成していきます。他に、摂食・嚥下(えんげ)訓練も実施しています。食べることに関する器官へのマッサージや実際の摂食場面での指導・援助を行います。

現在S.T2名で、医師指示のあった方達に、右記のようなアプローチをしています。経験不足は否めませんが、毎日毎日勉強しながら皆様に最適なアプローチをしていけるように頑張っています。基本的に土日にお休みを貰っているのですが、保護者の方々と会う機会が少ないうえ、ご相談・ご要望等ありましたらお声をおかけ下さい。

1)厚意

【寄付金・寄付物品】

- 小林豊様 宇澤恵一様 河津伸子様 高知競輪競馬場内保安労働組合様 川田夕子様 四国東通様 中四国デイリースポーツ高知支社様 RKC高知放送様 サンケイスポーツ様 大阪日刊スポーツ新聞社様 丸山啓一様 サンコール様 三宮印刷様 城南広放様 福ちゃん出版様 高知競輪競馬労働組合様 高知競輪場内食堂売店組合様 高知競輪報道協会様 日本自転車競技会中四国支部様 四国毎日広告社高知支社様 OMS様 高知市公営事業課総務様 高知競輪場様 高知市公営事業課名月会様 田村三夫様 高知広告センター様 大成サービス四国支社様 日本トーター大阪支社様 高野首彦様 坂田二子様 松村浩由様 吉本美代子様

【ボランティア】

- 清和女子高校様 ういず音楽ボランティア様 三和婦人会様 日章婦人会様 高知北ライオンズクラブ様 大篠婦人会様 日産労連NPOセンター様 おはなしキャラバンつばさ様

ありがとうございました。
 今後ともよろしくお願いします

☆ 編集後記 ☆

今年も新型インフルエンザの流行が心配され、希望の家祭やボランティアの受け入れ、その他外出なども制限をしなければならぬ状態、ご迷惑をお掛けしています。早く治まるといいですね。ご協力よろしく申し上げます。

みんなこの日のために一生懸命練習してきました。フリーマーケットも大忙しでした



寸劇踊りや楽団演奏、ファッションショーなどいろいろ趣向を凝らして各病棟、センターの出し物が発表されました

お天気も毎年気になるところですが、当日はすっきりと晴れ渡り、気持ちの良い一日となりました。また、県からは小田切地域福祉部長と福留障害保健福祉課長も参加してくださいました。ありがとうございました。
 今回はステージを玄関前に構えて、場所が狭いのではないかと思っていました。ごちんまりとまとまつて、2階の病棟からもよく見えたと好評でした。いろいろと創意工夫しながら、来年は更に楽しい希望の家祭にしていきたいですね!



「この紋所が目に入らぬか〜」
 3病棟あざみオールスターズ39感謝祭より



花火大会



9月6日(日)花火大会が開かれました。たくさんの花火がきれいでした☆

2病棟ミラクルダンスパーティー

八月九日(日)、2病棟西棟ホールをメインステージに「ミラクル・ダンスパーティー」が開催されました。職員と利用者によるひげダンスをスタートに保護者によるフラダンスや看護の津野さんの日本舞踊、療育大崎さんをキヤップに看護師2名のブレイクダンスや利用者、職員混合のよさこい踊り、超ミニスカートで踊るパラパラがあつたり、最後は日頃の取り組みの集大成、車椅子ダンスを皆で所狭しと踊りました。



在宅支援センター 秋の遠足



十一月二日(月)、在宅支援センターは「早明浦ダム・本山四季彩館」へ遠足に行ってきました。ご利用者十三名、ボランティア十四名に職員を合わせ総勢四十名の大所帯でした。

当日は早明浦ダムの紅葉をバックに写真を撮ったり、散策し秋の風を楽しむ企画でしたが、到着するとビューと強風で寒く、紅葉もまだ早い状態でした。気を取り直し、昼食場所のプラチナセンターへ移動。お弁当持参の方と、レストラン四季彩館でのお食事組に分かれました。

レストランでは、肉料理を中心にサラダばかりのお野菜が新鮮でおいしいと好評で、ゆっくりお食事ができました。お弁当組は、きれいな色合いで、ペーストされたおかずが入っておいしそうでした。食後は「さくら市」でリングやドレスリングなどの地元食材をショピング。その後のお楽しみタイムでは、謎の美少女?安子と栄子が登場し、じゃんけんゲームをして商品ゲット、記念写真もして盛り上がりました。今回の遠足はインフルエンザの心配がありました。また毎回場所選びにも正直悩んでいます。行つて良かった「また連れて行ってね」の声に楽しみにされている方が多いことがわかります。次回春の遠足はどこへ行こうかな。春が待ち遠しいですね。

ひまわり「泊旅行」

九月三十日〜十月一日、川村恭子さん、中平幸子さん、松田慶吾さんで「泊旅行」に行きました。城西館で泊まり、ごちそうをたっぷり食べました。次の日は、帯プラをし、大丸に行き、ショッピングして帰ってきました。



城西館に泊まって、フルコースを食べて、大丸に行って、ゆっくりできた旅行でした。 恭喜

こずもす「泊旅行」

十一月五〜六日、「ゆず香る北川村の旅」ということで、岩崎浩子さん、高橋利佳さん、松村昌紀さん、山崎満さんと「泊旅行」に行ってきました。お天気も最高!



安芸の野良時計のあたりかな? 記念写真をとりました!満さんはバッチリとカメラ目線!

人形劇「ボンザときしお」

十一月十二日(木)、日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」2009チャリティーきやらばんの活動として、NPO法人おはなしキヤラバン「つばさ」の皆さんによる人形劇の公演をさせていただきました。希望の家には十一年前にも来ていただきましたが、今回はその時以来の公演でした。前回の公演のことを覚えていた利用者の方もいらつしましたよ!



創立四十周年を迎えるにあたり

第二話 山崎 勲



起工式後の施設建築工事は、予定通り進捗し、昭和四十五年五月末に完工し、六月一日開園の日を迎える事が出来ました。先ず最初に入園したのは、土佐山田町の希望の家で生活していた五人の重症児達でした。この家は、私達山崎一家による、無認可の個人施設で、施設とは名ばかりの、

スライムアート展入選しました

十月に開催された、第十三回スライムアート展に、今年はずいぶん病棟の野中靖男さんと坂田幸子さんが入選しましたよ。おめでとうございます!



坂田幸子さん 入選作品 「花火」

野中靖男さん 入選作品 「オカメインコ」

高知県医師会看護専門学校 実習生感想文



12期生 伊藤 莉菜

土佐希望の家で学んだことは、看護師としてこれから仕事をしていく中で考え深いものとなりました。(中略) 私が4日間、受け持たせていただいた対象はてんかんがあり、喀痰や流涎が多く、夜間はモニター管理をされている方でした。

妻の母親の実家が空家になって居ましたのを、義母のお兄さんの許可を得、無償で借りました所、その家に、重い障害を持った子供達が住むように成る事を知った、ご近所の数人の大工さん達が、資材持ち込みで改修して下さったり、更に高知大学の障害児問題研究会に所属する皆さんが、庭の草引きとか、周辺の整備に来て下さったりで、皆様の「厚意を集めて開園した所でした。そこには、重症児であった私達の子供「昇」も入っていました。昭和三十八年八月八日生まれで、末広がりの八が三つ続いて、目出たい日に生まれたと、大喜びしたのでしたが、人生には何が起るかわかりません。妻は二人目の出産だし、何も心配をしていませんでした。出産の時、思いもかけない事が発生しました。立ち会った医師の単純ミスで、子供が窒息状態に陥り、脳に大きな障害が残る結果となりました。その後直ちに小児科医長が応急処置を取って下さり、命だけは取り留めましたが、脳性小児麻痺という、最悪の病名が付いてしまい、親子の闘いが始まりました。その後の一年間は、大阪医大小児科、脳外科を皮切りに、病院巡りが始まりました。

神戸市の先生からは、この病気が今の医学では治療出来ないの、「もう病院めぐりは止めて、子供さんの為に少しでも多くのお金を残しといてあげなさい」と云われましました。私達にも大変な病気が分かり掛かっていましたので、病気の治療ではなく、せめて自力で歩ける様にと、リハビリの出来る所をと思つて歩ける様になりました。そして、その間に同じ様な病気の子供が大勢いる事を知り、高知市の福祉事務所に行つて話を聞きますと、当時市内には分かつては、七十数人の重い障害に苦しんでいる子供さん達の居る所が分かりました。

言語的コミュニケーションは難しく、対象の訴えはきくことが出来ません。初めて対面した時、正直どのように接して良いのか考えました。実習1日目の夜は接し方について考えがまとまらず2日目目を向かえしました。2日目「おはようございます。今日も一日よろしくお願ひします」と言う笑顔が見られ、本を読むと目を大きく開けて動かす反応を見ることができました。そして、3日目は、私が対象に見てほしいと感じた本を持つていき読みました。すると、一つの本に同じ反応が見られました。レクレーションの時間にはタオルを引っ張ると引っ張り返す動作が少し見ることが出来、音楽に目をキョロキョロさせ見開く動作がみられました。部屋にはCDがたくさんあり、何曲も一緒にききました。入浴を一緒にして、気持ちよさそうにする表情や吸引する時のしんどそうな表情も、思いが伝わってくるようでした。(中略)

看護師という、人を見る仕事である者として、これからのコミュニケーションを考え直し、その方に合ったコミュニケーション法をとり、その方が一番良い状態になれるよう考え、広く視野を広げ看護を提供できるような残りの実習を大切にしていきたいと感じました。

私はICUで働きたいという思いがありました。しかし、今の自分ではICUで病氣と戦い、思うように自分の気持ちを表出することができない患者様の求める看護は行えないと思ひました。言葉や表情で表現できない人だからこそ、こちらが気づき考えなければいけないし、感じとらなければいけないと思ひました。この4日間一人の対象者様と関わらせていただき、様々な看護を見学・実施させていただき、貴重な体験をさせていただき、さらに勉強をしていかなければいけないと感じました。

昭和三十九年夏、びわこ競輪場に出場し、その帰途、びわこ学園を訪れました時、運良く医師であり園長をなされておられた、故岡崎英彦先生が在園されておられて、大川事務局長さんと二人にいろいろ教えて頂きました。お話の中に、今度東京に重症児達の親の会が出来て、京都市内にもその支部が有ると、その支部長さんの家を教えて頂き、その足でお宅をお訪ねし、お話を伺聞きして頂きましたので、高知にもその会を創ることにしました。

最初にした事は、高知県内では、まだまだ重症児達の事が社会問題になつた事がなかつたので、高知新聞の読者の広場に投書しました。内容は、私達夫婦が重症心身障害児といわれる、重い障害を持った子供の親になつた事と、この子供達の福祉が全く無い事や、行政にも目を向けてもらおう、そのための運動をするのに、親の会を創りたいので、参加してほしいと訴えました。

早速二人のお母さんからお手紙を頂きました。それに力を得、高知市福祉事務所へ行き、所長さんに事情をお話し名簿を写させて下さるようお願い致しましたが、ご承諾を戴くのは大変でした。それでもやっと許可を得て、妻と二人、手書で写させていただきました。今のようコピー等ない時代でしたので、住所や名前を記憶するのに良かったです。

その頃、私は現役の競輪選手として、全国を飛び回っていましたので、家庭訪問を始めてからは、妻を自転車の後に乗せて、練習のつもりで一生懸命ペダルを漕ぎ、三ヶ月ぐらいの間に、約五十軒ぐらゐを廻り、昭和三十九年十一月二十四日、会を行い、高知県重症心身障害児(者)を守る会を結成、初代会長として、その後の活動に取り組みました。